

授業科目	ビジネスファイナンス					単位	2		
履 修	選択	関連資格				ナンバリング	TO31510J		
開講年次	3・4 年	開講時期	後期	該当DP	DP1-3 DP2-1 DP3-1 DP5-1				
担当教員	須藤 秀夫								
授業概要	ビジネスでは数字（例えば、いくら利益なのか、あるいは、赤字なのか）が大事である。本科目では、企業財務（ファイナンス）の諸事項を扱う。企業の資金調達・運用の手法、企業の業績結果および業態を示す決算書の分析（財務分析）、外国為替取引の実務と為替リスク・為替差損益、金利・利回りなどの数字の計算方法・取扱い、事業を計画する上で柱となる収支計画の基礎的な作成方法（EXCEL の表計算の使用）、リスクの所在といった実践的な基礎知識を学ぶ。								
学生が達成すべき行動目標	1. 企業の資金調達手段（借入れ、社債発行、株式発行による調達）について違いなどを説明できる。 2. 企業の決算書を読み分析することができ、その企業の業績・業態の良し悪しを説明できる。 3. 外国為替の差損・差益は輸出・輸入取引や外貨預金・投資でどのように発生するのかを説明できる。 4. 将来の収支計画表（収入・費用・利益）を EXCEL の表計算を使って作成できる。 5. 固定費・変動費の意味を理解でき、損益分岐点分析は企業経営でどのように使われるのか、説明できる。 6. 金利はどういうときに上がるか下がるかが説明でき、債券の利回り計算ができる、 7. 財務・金融に関係するリスクにどのようなものがあるか、説明できる。								
達成度評価									
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表（口頭、プレゼンテーション）	レポート 外の提出物	その他	合計	備考	
総合評価割合	45	0	45	0	0	10	100	レポートは 2 回	
知識・理解（DP1-1）									
知識・理解（DP1-2）									
知識・理解（DP1-3）	35		30				65		
知識・理解（DP1-4）									
思考・判断（DP2-1）	10		10				20		
思考・判断（DP2-2）									
関心・意欲（DP3-1）						10	10		
関心・意欲（DP3-2）									
態度（DP4-1）									
態度（DP4-2）									
態度（DP4-3）									
技能・表現（DP5-1）			5				5		
技能・表現（DP5-2）									
技能・表現（DP5-3）									
具体的な達成の目安									
理想的レベル				標準的なレベル					
企業財務、外国為替取引と為替差損・差益、金利・利回りに関する基本的な知識をよく理解している。財務分析の手法と考え方を現実の企業に当てはめて応用し説明することができる。さらに、EXCEL を使った収支計画表の作り方、シミュレーションの考え方をよく理解している。また、企業財務に関する新聞などの報道を十分理解することができる。				企業財務、外国為替取引と為替差損・差益、金利・利回りに関する基本的な知識を一通り身に付け、また、財務分析の手法と考え方を現実の企業に当てはめて一通り説明することができる。また、EXCEL を使った収支計画表の基本的な作成方法を理解している。					

授業計画				
進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	資金調達：企業の資金調達の方法にどのようなものがあるか、株式発行と借入れとはどう異なるのかといった。	講義	該当部分の復習	60
2	企業の決算書の読み方(1)：貸借対照表とはどのようなもので、どう読むか。	講義 質問・感想票にて質問等を受ける。	該当部分の予習、復習	60
3	企業の決算書の読み方(2)：損益計算書とはどのようなもので、どう読むか。	質問に答える。 講義	該当部分の予習、復習	60
4	企業の決算書の読み方(3)：キャッシュフロー計算書とはどのようなもので、どう読むか。	講義 質問・感想票にて質問等を受ける。	該当部分の予習、復習	60
5	企業の決算書の読み方(4)：2社比較による財務分析はどのように行うか。会計監査はなぜ必要か。	質問に答える。 講義	該当部分の予習、復習	60
6	外国為替：外国為替取引は、輸出企業、輸入企業において実務的にどのように行われるのか。	講義 質問・感想票にて質問等を受ける。 課題その1を提示する。	該当部分の予習、復習 課題その1に取り組むとともに、それを就職活動における企業研究として役立てる。	60
7	外国為替：外国為替取引においてどのように為替差損・差益は発生するのか、為替リスクはどのように防止(ヘッジ)されるのか。	質問に答える。 講義	該当部分の予習、復習 課題その1に取り組むとともに、それを就職活動における企業研究として役立てる。	60
8	収支計画：ビジネス事業の収支計画表はなぜ必要か、どのように作成するか(EXCEL使用)。	講義 質問・感想票にて質問等を受ける。	該当部分の予習、復習	60
9	収支計画：ビジネス事業の収支計画表の使い道として、シミュレーションがなぜ有用か。	質問に答える。 講義	該当部分の予習、復習	60
10	損益分岐点：固定費と変動費とはどのようなものか、損益分岐点分析は企業経営上なぜ必要か。	講義 質問・感想票にて質問等を受ける。 課題その2を提示する。	該当部分の予習、復習 課題その2に取り組む。	60
11	金利：金利にはどのような種類があるのか、金利の単利計算と複利計算とはどのようなものか。	質問に答える。 講義	該当部分の予習、復習 課題その2に取り組む。	60
12	公社債と利回り：公社債にはどのような種類があるのか、公社債市場ではどのようなことが行われるのか、公社債の利回り計算はどのように行うのか、利回りと債券価格の関係はどうなっているのか。	講義 質問・感想票にて質問等を受ける。	該当部分の予習、復習	60
13	リスク：財務・金融に関係するリスクにはどのようなものがあるのか。	質問に答える。 講義	該当部分の予習、復習	60
14	投資判断：企業を買収する、工場など設備投資をする、空港などインフラ設備を作るといった投資を行うべきかどうかの判断は、どのような分析手法によって行われるのか。	講義 質問・感想票にて質問等を受ける。	該当部分の予習、復習	60
15	まとめ	質問に答える。 講義	全体的な復習	60

16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	簿記の基本的な知識をもっていると、財務分析はより早く理解できるであろう。1年生のときに習ったであろうEXCEL表計算の使い方を思い出しておくと、収支計画表の作成は比較的扱いやすいであろう。 企業の資金調達方法、利回り計算などについては、学生は予備知識をあまり持っていないであろうが、株式発行、銀行借入れとはどういうことかといった事にあらかじめ問題意識・関心をもっていると、学びやすいであろう。 決算書を読むことができるということは学生として、また社会人として大きな武器になる、との認識はもってほしい。			
テキスト	指定なし。プリントを配付する。			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	財務分析については、次の書籍が初心者にも分かりやすいのでぜひ勧めたい。 渋井真帆『あなたを変える「稼ぎ力」養成講座 決算書よみこなし編』ダイヤモンド社、最新版、1,400円＋税 また、随時、企業財務の時事問題などを報じる新聞記事等を配付する予定。			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	・財務分析の勉強と合わせて、簿記の基本的知識を習得しておくと、よりよく理解する上で有効であろう。 ・EXCELでの基礎的な表計算を使えるようになることが、とくに収支計画作成と分析の上でも便利であり望ましい。また、社会に出てからも多用される。 ・将来、金融（銀行、証券、保険等）への就職を考えている学生に、履修を勧めたい。就職してから金融商品を販売する上で必要な外務員やファイナンシャル・プランナーの資格試験の対策ともなるからである。また、就職活動や将来の投資等において企業業績の見方等を習得したい学生に履修を			
達成度評価に関するコメント	レポートの内容については、授業の中で指示します。			